

令和2年12月25日

厚生労働大臣

田村 憲久 殿

日本小児科学会

会長 岡 明



日本マスキング学会

理事長 大浦 敏博



日本免疫不全・自己炎症学会

理事長 平家 俊男



重症免疫不全症に対する新生児スクリーニング実施体制の
整備およびその普及に関する要望書

貴省の予防接種事業は、乳幼児を含めた小児の健康維持・疾病予防に大いに貢献しているところですが、先天的に重要な免疫機能を欠損している患者（重症複合免疫不全症：SCID など）では、BCG、麻疹・風疹・おたふくかぜ、などの生ワクチン接種により、重症なリンパ節炎、骨髄炎、脳炎、肉芽腫などの感染症を発症することが知られています。また、令和2年10月より定期予防接種に加えらるるロタウイルスワクチンによっても、重症の下痢・血便等を伴う胃腸炎の原因になることが報告されています。一方、免疫を専門としない医師にとって、これらの免疫不全症を早期の段階で的確に診断することが困難であることも事実です。

SCID を含む重度の免疫不全症患者に対し予防接種による健康被害を回避するためには、新生児スクリーニング等*にてワクチン接種前にこれらの疾患を診断することが必要です。欧米やアジア諸国では既に全ての新生児を対象とした新生児スクリーニング体制が確立し、成果をあげています。一方、我が国ではこのような新生児スクリーニングはごく一部の地域で、しかも有料の任意検査としてなされているに過ぎません。

これらのことを鑑み、重度の免疫不全症患者が予防接種により健康被害を受けることがないよう、全国的な規模での免疫不全症に対する新生児スクリーニングの体制整備及びその普及を要望いたします。

以上

*免疫不全症に対する新生児スクリーニングとは、新生児マスキングで使用されるろ紙血を用いて新生児のリンパ球（T細胞・B細胞）産生能をPCR法にて調べるものです。

なお、上記に関する連絡は以下までお願いします。

日本免疫不全・自己炎症学会事務局（藤本 尚子）Mail to: office@jsiad.org

TEL. 050-8884-0688 内線 1002（臨床医学推進機構内）、FAX. 03-6801-6172